

地域看護実習で行う地域診断及び地区活動計画作成への ポートフォリオ導入の試み

石川麻衣¹⁾, 小澤若菜²⁾, 川本美香²⁾, 時長美希³⁾

(2015年9月30日受付, 2015年12月17日受理)

Effort to adopt a portfolio in community diagnosis and planning community health nursing in community nursing practicum

Mai ISHIKAWA¹⁾, Wakana OZAWA²⁾, Mika KAWAMOTO²⁾, Miki TOKINAGA³⁾

(Received: September 30, 2015, Accepted: December 17, 2015)

要 旨

本学では、平成23年度より、地域看護実習で行う地域診断及び地区活動計画作成について、グループで凝縮ポートフォリオにまとめるという教育方法を導入している。研究目的は、ポートフォリオを用いた教育方法の効果及び課題を明らかにし、効果的な教育方法を検討することである。地域看護実習受講学生を対象としたアンケート調査の記載内容と教員の指導記録を分析した。

その結果、ポートフォリオの導入は、地区分析の過程を整理し、地区の健康課題と一貫性のある計画作成を促進するという効果があった。また、情報の判断力・統合力・表現力を高めるという効果が確認できた。

キーワード：ポートフォリオ, 保健師教育

Abstract

We adopted a portfolio in community diagnosis and planning community health nursing in community nursing practicum from the 2011 fiscal year. The purpose of this study is to clarify the learning effect and challenges of using portfolios in community health nursing and to consider education an effective way through it. We conducted a questionnaire survey to Students who attend community health nursing practicum. We also analyzed the education records of the instructors.

As a result, adoption of a portfolio promoted the consistent planning basis of the community issues to sort out community assessment and to plan community health nursing. Other Effects were confirmed that adoption of a portfolio improved students' ability to judge information, to integrate information, and expressiveness.

Key words: Portfolio, Education of public health nurse

1) 高知県立大学看護学部 看護学科 講師 Department of Nursing, Faculty of Nursing, University of Kochi, Lecturer
2) 高知県立大学看護学部 看護学科 助教 Department of Nursing, Faculty of Nursing, University of Kochi, Assistant Professor
3) 高知県立大学看護学部 看護学科 教授 Department of Nursing, Faculty of Nursing, University of Kochi, Professor

I. はじめに

本学では、平成23年度より、地域看護実習で行う地域診断及び地区活動計画作成について、グループでA3版の凝縮ポートフォリオにまとめるという教育方法を導入している。研究目的は、ポートフォリオを用いた教育方法の効果及び課題を明らかにし、効果的な教育方法を検討することである。

II. 地域看護実習の概要

地域看護実習は、3年次後期に行われる、2単位90時間の実習である。実習の概要を表1に示す。学生を6～8名のグループに分け、ローテーション形式で、1クール1～2グループの実習を6クール実施している。

地域看護実習の目標は、7つの大目標と16の中目標で構成されている。実習目標を達成するため、地区分析に基づく地域課題の明確化と次年度の活動計画作成、事業参加、集団健康教育などを実施している。

地域診断と最も関連が深いのは目標2である。

目標2には3つの中項目、「①地域住民や地域環境に対して、地域の健康課題を把握する上で必要な観察及び情報収集が実施できる」、「②地域住民の健康状態・生活自立度・生活行動・セルフケア力・生活環境・ライフステージ及び地域の社会資源の視点から、情報を総合的に分析判断し、現在及び今後予測される実習地域の健康課題を見出すことができる」、「③地域の統計情報や事業報告を分析し、実習地域の健康課題及び保健医療福祉活動の課題を見出すことができる」を設定している。

地区活動計画作成は、目標4の中目標「①地域看護活動の計画を立案することができる」と関連している。この中目標は、さらに小目標「モデルや理論を活用して系統的・計画的な地区診断を行い、活動計画を作成することができる」「保健医療福祉の施策を踏まえ、住民のヘルスニーズに即した活動を展開するための基盤づくりや条件づくりを包含した活動計画が立案できる」「活動計画の評価計画を立案することができる」を設定している。

表1：地域看護実習の概要

| 単位・時間数 | 2単位・90時間 |
|---------------|---|
| 実習目的 | 地域社会での個人・家族・集団の生活および健康を総合的に理解する。生活に応じた援助方法や家族・集団に対する援助方法について学び、地域の健康問題に対して看護活動を展開する能力を養う。また、地域のヘルスケアシステムについて知り、他職種や住民との連携について考察し、その中での看護者の役割について理解を深めるとともに、学生自身の自己洞察を深め、専門職としての意識を啓発する。 |
| 実習地 | 保健所設置市 |
| 実習目標 (大目標) | <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域のヘルスニーズの把握を通じて、地域看護の対象となる地域住民や地域への理解を深めることができる 2. 地域診断により地域の健康課題を明確にすることができる 3. 地域住民に対する責任性を基盤に、地域住民や関係者との関係づくりを行うことができる 4. 地域看護活動の展開方法を習得することができる 5. 地域全体を対象としたケアのマネジメント方法への理解を深めることができる 6. 地域で生活する人すべてがその人らしく生活する権利を守るために必要な地域看護活動について理解を深めることができる 7. 地域看護活動を通して、看護専門職者としてのアイデンティティが形成できる |
| 実習内容 | <ul style="list-style-type: none"> ◇実習地でのオリエンテーションに参加し、実習地の保健活動及び保健師の機能・役割に関する理解を深める。 ◇保健師より、担当地区における保健師活動及び家庭訪問支援に関する説明を受け、地区分析及び計画作成の参考とするとともに、受け持ち地区を対象とした保健師活動について、活動展開方法の理解を深める。また、保健師が行う家庭訪問の機能・役割について理解を深める。 ◇グループで地区踏査・情報収集を基とした地区分析を行い、地区の健康課題を見出し、次年度の活動計画を立案する。 ◇グループで集団を対象とした健康教育を企画・実施・評価する。 ◇保健師の関わる事業に参加し、事業の企画・実施・運営における保健師の機能・役割を把握するとともに、事業をより住民のヘルスニーズに適応させるための方法を考える。 ◇学生全員・臨地指導者・教員で反省会を行い、実習体験の振り返り、共有、自己の学習の方向付けを行うとともに、地域の健康問題を解決するための看護活動のあり方を考える。 |

1. ポートフォリオの導入目的及び経緯

平成23年度に、3年生を対象に実施した地域看護実習より、カリキュラム改編を見越し、実習期間の縮小に合わせ、より効率的な課題学習の実施と成果の共有を目的に、鈴木敏恵氏の提唱する未来教育プロジェクト学習¹⁾を参考に、課題ポートフォリオを取り入れた。ポートフォリオの活用について、実習の自己評価、自己教育力の育成、看護技術演習の習得等を目的として活用されている例が多いとの報告²⁾があるが、本学では、総合学習の手法としてではなく、実習の最終成果物の作成手法として取り入れることとした。ポートフォリオの導入目的は、①地域診断および地区活動計画の課題達成状況を簡潔に確認できるようにする、②学生の情報判断力、統合力、表現力を高める、③学生が、より主体的に楽しく課題に取り組めるようにする、の3つである。効果が確認できたため、新カリキュラム移行後も、修正を加えながら継続して実施している。

ポートフォリオとは、「自らの意思で、自らの成果や自ら手に入れた情報を一元化したもの³⁾」を指す。実習では、実習中に学生が集めた地区の情報を分析し、一元化した情報を凝縮させたもの、すなわち凝縮ポートフォリオを作成する。実習におけるポートフォリオの成立条件として、以下の4つを設定している。①「意思ある提案」になっている：地区活動の目的・目標に向かい、地域診断から計画作成まで行ったプロセスと各段階の内容が、整合性をもつ。②「根拠ある情報」が添えられている：分析の根拠と、目標や活動計画の意図が読み取れる。情報源が分かる（出典・日付等）。③紙面全体が思考の構造を示している：図やグラフの特徴を活かし、わかりやすく伝える。地域診断のプロセスを確認できる構成になっている。④具体的な提案がある：現実の課題を解決するために、効果的で実行可能な計画が示されている。これらの要件をすべて満たしたものが地域診断ポートフォリオである。学生の作成したポートフォリオの一例を図1に示す。



図1 学生の作成した地域診断ポートフォリオ

2. ポートフォリオを用いた教育の実施方法

ポートフォリオの作成は、地域診断のプロセスと対応させて実施している。地域診断のプロセスとポートフォリオ作成スケジュールの対応を図2に示す。

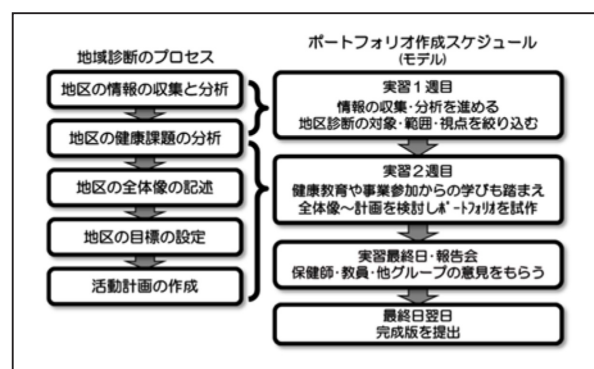


図2 地域診断のプロセスとポートフォリオ作成スケジュールの対応

作成前の準備として、実習開始時のオリエンテーションでミニ講義を行い、ポートフォリオの意図と作成の留意点を説明している。実習の前半では、グループで地区の情報収集を計画的に進めることとなる。資料の分析、地区踏査、関係者や住民からの情報収集、活動や保健事業への参加を行い、地区の情報を蓄積する。情報収集や分析と並行して、地域診断をする対象・範囲・視点を絞り込み、ポートフォリオの仮テーマを設定する。実習が進むに従い、地区の健康課題の分析、目標の設定、活動計画作成までを実施し、そのプロセスと結果をA3用紙1枚にまとめる。実習最終日、

他のグループや臨地実習指導者と報告会を行い、ポートフォリオ完成に向け助言を得たのち、完成したポートフォリオを提出する。実施後の学生へのフィードバックとして、全グループの実習が終了した後、全グループのポートフォリオを記載した冊子（図3）を作成し、受講学生に配布している。

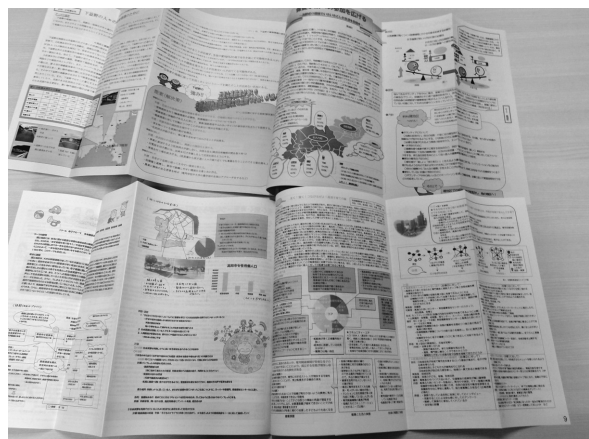


図3 ポートフォリオ集

Ⅲ. 研究方法

1. 研究対象者

平成26年度地域看護実習受講学生77名

2. 方法

各クールの実習終了時に、無記名のアンケート調査を実施した。①ポートフォリオを作成して学んだこと、学びが深まったこと、良かったこと、②ポートフォリオを作成する際に気になったこと、悩んだこと、改善してほしいこと、③ポートフォリオに関連することで気づいたこと、意見・感想について、自由記載で回答を求めた。

アンケートの記載内容から、ポートフォリオの長所・効果に関する内容、ポートフォリオの課題・困難だった内容、教員に要望する内容をそれぞれ抽出し、内容の類似性でまとめた。

また、指導内容を評価するために実習担当教員が作成している指導記録の中から、ポートフォリオの作成指導において課題と感じたことを抽出し、整理した。

Ⅳ. 倫理的配慮

受講生に対し、研究の主旨及び匿名性の確保、守秘義務、協力の任意性について口頭で説明し、アンケート用紙の提出で同意を確認した。

Ⅴ. 結果

1. 受講学生の意見(表2)

アンケートは、59名(76.6%)より回答が得られた。28名(47.5%)の学生が、回答の中に「難しかった」「大変」「悩んだ」のいずれかの用語を用いていた。しかし、『(記載内容の抜粋)1枚にまとめるにあたり、必要な情報の選択、まとめ方といった点でとても工夫が必要になり、大変でした。しかし、作成後、見かえしてみると、1枚にまとめ、焦点を明確にすることで、見やすいものになっていると思いました。多職種の連携の必要さも学んだので、その人たちに自分たちの情報を伝える手段として伝わりやすさ、伝え方の学びになったのでよかったと思います。』等、困難を乗り越えることで学びを得たとの記載もあった。

ポートフォリオの効果として、「地区分析の過程を振り返り整理することができる(16名)」「伝えたいこと、強調したいことにポイントを絞ることができる(11名)」「人に伝える力がつく(10名)」「まとめる力がつく(8名)」「自分らしさが表現できる(7名)」等の意見があった。

困難だったこととして、スケジュール管理、役割分担、A3にまとめること、人に伝わる内容や構成を考えること等が挙げられた。また、事前の説明や作成例の提示方法に関する要望があった。

2. 教員が課題と感じたこと(表3)

実習担当教員3名は、指導方法と、学生の取り組み傾向の2つの面で課題を感じていた。

1) 課題と感じた指導方法の内容

教員が課題と感じた指導方法の内容は、①データの統合・分析の指導の難しさ、②学生が試行錯誤しながら内容や構成を決めていく過程の支援の難しさ、③スケジュール管理と課題達成度を高め

表 2：ポートフォリオに関する学生の意見

| 学生の意見（○は記載内容の一部抜粋） | |
|--------------------|--|
| ポートフォリオの効果・長所 | <p>地区分析の過程を振り返り整理することができる(16名)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ポートフォリオを作成することによって、今までの地区分析をまとめ整理することができ、地区全体を捉えることができた。何度も考えて修正してということを繰り返したので、地区のことをより深く知ることにつながったと思う。 ○字数制限があるので、より言葉を選びながら文章を構成していくことが必要であると感じた。そのためには、地区分析を十分に理解しておく必要があるので、ポートフォリオ作成にあたって、振り返りのような役割もあると感じた。 |
| | <p>伝えたいこと、強調したいことにポイントを絞ることができる(11名)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ポートフォリオを作成することによって、要点、自分達が強調したポイントがわかりやすい。 ○ポートフォリオを作成する際に何をポートフォリオにのせ、何を削るのかといった判断などを学んだ。 ○自分たちで分かりやすく工夫する事ができ、また、多くの情報を端的にまとめるので、重要な事が分かりやすく、よかった。 |
| | <p>人に伝える力がつく(10名)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ポートフォリオを実際使ってみて、読む人の気持ちを考えることができた。 ○今まで詳しく書いてたくさん書いて情報を伝えるというパターンだったのに対し、見やすく、読む気になれて、絵やグラフをいれるなど、全く違う感じだったので勉強になった。 ○地図やグラフなど、どうしてそれを使うのか、何のためにつかうのかを考えることが大切だと思った。 |
| | <p>まとめる力、統合する力がつく(8名)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○1枚と指定されていたことで、その中でどのようにまとめていけばよいか考えることとなり、整理する力も身についた。 ○全ての内容を書くことは難しいため優先順位や重要な内容を判断しまとめたことで、自分たちの中でも理解しやすく見る人だけでなく自分たちにとってもプラスになったので、ポートフォリオを行ってよかったと思う。 ○何を伝えたいか・入れたいかを明確にしていないと、何を伝えたいのか分からないポートフォリオになってしまう。情報を絞っていく過程がとても勉強になった。 |
| | <p>自分らしさを表現できる(7名)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地区の特性を生かした形式に自由に変えながら自分たちなりのかたちで表現することができた。 ○それぞれのグループでポートフォリオに書くものは異なってくるので、それぞれのグループの思いが伝わりやすいと思った。(特にかんばったところや見てほしいところが) ○色合いや配置などのデザインを、グループでオリジナリティのあるものにできるので、良いと思う。 |
| | <p>グループで取り組む力が付く(2名)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ポートフォリオ作成には、地域で見たこと、学んだことをグループで話し合い、情報を言い合った上で行ったので、グループワークを大切にしていきたいと思ったし、自身の意見も出していこうという気持ちにもなれた。 |
| | <p>達成感が得られる(1名)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○すべての構成を考えることとなったため、レイアウトなどを考えることが難しかったが、1枚に収まり、出来上がった時の達成感も大きく感じられた。 |
| | <p>わかりやすい(7名)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○1枚の紙に地区の情報をまとめることで、現状から次年度の計画までが分かりやすく見ることができた。 |
| | <p>まとめやすい量・形だった(5名)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分たちで自由に形式を考え、レイアウトしていくことで、自分たちがまとめやすい形だった。 ○ポートフォリオ、A3はちょうどよいと感じた。 |
| | <p>人に伝わる内容や構成にするのが難しい(6名)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○作成する過程で、読む人への伝わりやすさを考えるのが難しかった。自分たちが分析したことをどこまで簡潔にまとめると良いのか、簡潔にしすぎると考えが伝わらないというところで悩んだ。大変だったけどいい経験になったと思う。 ○考えていることを文章におこしてまとめるのが改めて難しいと感じた。 ○ポートフォリオはうまく構成立てて書くことが大切で、一見して分かりやすく理解しやすいため良いが、情報や関係している根拠をかくとA3にまとまらなかつたり、言いまわしなどを使い書くと伝わりにくかつたりと難しかった。 |
| ポートフォリオの課題・困難 | <p>レイアウトが大変(6名)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○人に見やすく、読みやすいものにするため、配置や字の大きさを考えるのが大変だった。 ○パソコンに強い人がいないとレイアウトや挿入の機能などが使えないかもしれないと感じた。 ○レイアウトに時間がかかる。 |
| | <p>A3の分量にまとめるのが大変(5名)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○1枚でとても限られていたので、もう少し枚数が作成できたら伝えたいことを伝えられるのではないかと考えた。 ○枚数や用紙のサイズ指定がなければ、自分たちのアセスメントや情報をもっとふまえたものにできた気がする。 ○得られた情報を、あれもこれもと入れようとしてしまい、情報の選択を行うことが難しかった。 |
| | <p>作成の時間、スケジュール管理(2名)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ポートフォリオをつくる時間にもう少し余裕がほしかった。 ○ポートフォリオは後でも全然大丈夫という声掛けをされると、安心してしまふところがあったので、安易に言わない方がいいと思った。最後の方でバタバタして苦労したので。 |

表2：ポートフォリオに関する学生の意見 つづき

| 学生の意見 (○は記載内容の一部抜粋) | |
|---------------------|---|
| ポートフォリオの課題・困難 | 役割分担に工夫が必要(2名) ○地域実習には大きく健康教育とポートフォリオ作成の2つの課題があるが、グループ内で役割分担をして取り組むと、もう一方の課題が十分理解できないまま終わってしまったように感じた。 ○パソコンが2台ということで、役割分担する必要性が分かった。 |
| | 手の空くメンバーが出てしまう(4名) ○学生7名全員がポートフォリオ作成に携わることは、人数が多いのでできなかった。 ○7人全員でポートフォリオを作成するのは、人数が多く誰かしら何もすることがない人がいて困った。 |
| 要望 | 事前の説明や練習が必要(10名) ○1度事前に練習でつくる機会があればよかったと感じた。 ○授業の際、目標指向型と問題解決型についての学習にもう少し時間をかけてほしい。どちらでいくのか悩むことが多かったため、具体的にどちらで選択するべきかについて詳しく知りたかった。 ○ポートフォリオに関する授業を、もっとしてほしいと思った。実際に作成する際に、構成などに悩んだ。 ○目安として、テーマ○○文字程度、全体像○文字程度などあれば、まとめやすいと思った。 ○最低限何の項目が入っていたらいいのか、他に入れるとしたらどのような項目があるのかという情報を最初に教えてもらえると、その中でより考えが深まり、どれを選ぶのか考えられたのではないかと考えた。 ○あの少ない情報量の中で、テーマを設定する必要性はよく分からなかった。 ○ポートフォリオに限らず目的・目標を考えることが難しいと感じた。違いがあまり分からないままだったので。 ○何を入れてもいいというのは自由で考えやすいが、その反面、自由すぎて何を書いたらいいのかわかりにくかった。(決めに良かった) |
| | 過去のポートフォリオの例示のしかたを工夫してほしい(4名) ○先輩の例があったので、イメージしやすく取り組みやすかった。もう少し例があると、アイディアも広がりそうだと感じた。(例に引っ張られることもあった) ○ポートフォリオの先輩の作成例を、ポートフォリオを作る前に少し見せてもらいたかった。自由と分かっている授業で例としてもらった物を見本に作ってしまい、どこまで自由なのかがつまみにくかった。 ○ポートフォリオは自分たちで自由に作成して良いということだったが、いざ作ろうとなると何を書くべきか、配置などを考えるのが大変だった。その上で先輩たちのポートフォリオは1つの見本として参考にすることができたのが良かった。 |

表3：教員が課題と感じたこと

| | 教員が課題と感じた点 | 指導記録の抜粋 |
|---------------|--|---|
| 課題と感じた指導方法の内容 | ①データの統合・分析の指導の難しさ | ○多角的に量的なデータを示し、市全体の一部としての○○地区ということでの捉え方はできていた。しかし人々の声がデータとしては表せていなかった。助言はしても困難であった。個々の記録には記載があるにもかかわらず、グループとしての共有は困難であった。 |
| | ②学生が試行錯誤しながら内容や構成を決めていく過程の支援の難しさ | ○自分たちが地区の人々に直接声をかけ収集した情報を丁寧に集計していた。その集計結果をポートフォリオに分析の根拠として載せるとよいと思い提案したが、最終的に学生たちは必要ないと判断していた。データを見せると分析結果の説得力が増すことが実感できなかったのかもしれない。 ○ある学生がさらに良くするための工夫を提案しても、多数決で却下される際の介入が難しい。 |
| | ③スケジュール管理と課題達成度を高める指導とのバランスの取り方 | ○目標の設定までに時間をかけ取り組んだが、学生自身はもう一方のグループの進捗状況も気になり、早くポートフォリオにしたいと行動しようとする学生もいた。パソコン活用の技術も高くなかったため、その点で学生も焦っていたように思う。健康課題までのつながりがよく見えるようにまとめることができていた一方で、目標以降は内容を羅列したという印象を与えるポートフォリオになった。 ○学生は納得するまで実施したいが、時間をかけると疲労度が増すため、どこで介入するかタイミングが難しい。 |
| 課題と感じた学生の傾向 | ①よく検討せずに作成例の構成をまねる | ○コミュニティ・アズ・パートナーモデルの枠組みで情報を提示していた。意図を尋ねたが明確でなく、先輩の例を真似した様子。授業で提示した例にとらわれず、自由に作って良いと伝え、過去のポートフォリオ集を複数提示した。 |
| | ②内容よりも形や綺麗さを気にする | ○パソコン作業が苦手であることが、学生によっては、学習の進捗度や効果の表し方に差が出てくると考えていた。パソコンで作成したほうが評価が高くなると誤解していたので、訂正した。 |
| | ③最初からA3サイズに収めることを重視し、分析・統合の過程を省略しようとする | ○実習4日目でポートフォリオの原型を作成していた。まだ情報収集も不十分な状態で形を作り込まなくていいと伝えた。 |

る指導とのバランスの取り方、であった。

2) 課題と感じた学生の傾向

課題と感じた学生の傾向は、①よく検討せずに作成例の構成をまねする、②内容よりも形や綺麗さを気にする、③最初からA3サイズに収めることを重視し、分析・統合の過程を省略しようとする、の3点であった。

Ⅵ. 考察

1. ポートフォリオによる分析過程の振り返りの効果

ポートフォリオの導入は、地区分析の過程を整理し、地区の課題に基づく地区活動計画を立案することにつながっていた。凝縮ポートフォリオの作成は、集めた情報の再構築の過程にあたる。ポートフォリオの効果として「地区分析の過程を振り返り整理することができる」と、再構築の際の振り返りの効果を挙げた学生がもっとも多かった。

このことは、学生にとってポートフォリオをまとめる作業が、地区の情報や分析結果を地区の目標や活動計画と合わせてどのように紙面に記載するか考えるとともに、実習の中で行ってきた情報収集と地区分析の過程を振り返り、地区分析の結果がこれでよいのか吟味する機会になっていたことを示している。分析・統合の過程を省略しようとする学生がいたという課題があったが、学生が再構築の過程を経ることができるよう教員が指導を行っていた。また、ポートフォリオの成立要件の中に「プロセスと各段階の内容の整合性の確保」があることを説明しているため、学生が自分たちで整合性を確認するために情報や地区分析の段階を振り返ろうと提案する姿も見られた。学生が再構築のプロセスを踏んでいることと、再構築の過程を学生が効果として実感していたことが明らかになった。

本実習は、事業参加や健康教育の実施など、地区分析以外にも様々なプログラムが含まれている。そのため、地区分析のプロセスが他のプログラムによって中断されることがある。課題が複数

あり、日々実施内容が変わる実習プログラムの中で、それまで行ってきた情報収集と地区分析の振り返りが促進されることは、その後の健康課題の分析と地区活動計画作成に一貫性を保つために重要だと考える。

塩見ら⁴⁾が提示した地域看護診断の学びの評価項目10項目と比較すると、「必要な情報の抽出と解釈」「情報の関連付け」「考えとその根拠の説明」「計画づくり」の4項目が、ポートフォリオを導入することで高められる学習効果だと考える。「必要な情報の抽出と解釈」「情報収集のための対人コミュニケーション」「情報の関連付け」「地域診断を通じた公衆衛生看護の理解の深化」「計画づくり」「社会資源の機能の理解」の6項目は、本実習目標として明示し、プログラムを組んでいる項目である。実習目標として明示していなかった「考えとその根拠の説明」について、ポートフォリオ導入によって学習効果が高まっており、このことが、計画の一貫性を保つ効果に結びついたと考える。

2. 情報の判断力・統合力・表現力に関するポートフォリオ導入の効果

アンケートの回答に、「伝えたいこと、強調したいことにポイントを絞ることができる」「人に伝える力がつく」「まとめる力がつく」「自分らしさが表現できる」等の意見があり、情報の判断力・統合力・表現力が向上するという効果を学生が実感していることが確認できた。これらは、ポートフォリオ導入の目的として挙げていた内容であり、導入の狙いが効果として表れていることが明らかになった。

表現力について、学生はアンケートの中で、「人に伝わる内容や構成を考えること」を困難として挙げており、また「読む人の気持ちを考える」「多職種連携の情報伝達手段として考える」ことの重要性に言及していた。これらは、学生が、看護職者として活動を展開するために他者に伝わる表現力が必要だということ、つまり、レポートの表現

力向上にとどまらず、看護活動の一環としての表現力の向上について学びを得ていたことが明らかになった。これは、学士課程においてコアとなる看護実践能力⁵⁾では、「4)根拠に基づいた看護を提供する能力」と「5)計画的に看護を実践する能力」の育成にあたる。これには、別のグループや実習指導者と報告会で共有するためのツールとしてポートフォリオを使用するという教育上の工夫も影響していたと思われる。

3. ポートフォリオを用いた教育方法の課題

困難だったこととして、スケジュール管理、役割分担、A3にまとめること、等が挙げられた。これらは、学生と教員が双方とも課題と感じている内容であった。担当教員は、グループ毎の特徴や課題を捉え、悩みながらも指導の工夫で課題を解決していた。また、グループ内の話し合いの中で、学生自身で課題に気づき対策をとることもあった。これらのことから、グループごとに個々の力量とグループダイナミクスを判断し、ポートフォリオ作成プロセスを通してどの学習目標の到達度をどこまでどう高めるとよいか方向性を決定し、あくまでグループの自己決定に基づくポートフォリオ作成のサポートとして指導を実施するという教授活動が求められていることが明らかになった。

事前の説明や作成例の提示方法に関する要望については、すでに実習の中で取り入れている内容も挙がっていた。ポートフォリオ導入の意図や作成方法について、学生の理解に応じ、適宜グループや学生ごとに指導を補足的に行う必要があると考えた。

4. 結論

ポートフォリオの導入は、地区分析の過程を整理し、地区の課題に基づく地区活動計画を立案することにつながっており、地区の健康課題と一貫性のある計画作成を促進するという効果があっ

た。また、情報の判断力・統合力・表現力を高めるという効果が確認できた。

しかし、ポートフォリオの効果を高めるには、課題の事前説明やグループの進行状況に合わせたサポート等、教員の指導が重要である。今後、さらなる指導力向上に努めていきたい。

謝辞

本研究を実施するにあたりご協力いただいた学生の皆様に感謝いたします。

本研究の結果の一部を、第18回地域看護学会学術集会で発表した。

文献

- 1) ポートフォリオとプロジェクト学習 看護師の実践力と課題解決力を実現する！, 医学書院, p3, 2010.
- 2) 小島さやか：文献から見た看護教育におけるポートフォリオ評価活用の現状, 新潟青陵学会誌, 4(3), pp101-109, 2012.
- 3) 鈴木敏恵：目標管理はポートフォリオで成功する 看護管理・学校運営のためのモチベーションマネジメント, p30, メヂカルフレンド社, 2006.
- 4) 塩見美抄, 小巻京子：地域看護診断の学び評価ルーブリック原案の作成, 文部科学省科学研究費補助金基盤研究(C)研究成果報告書(平成24～平成26年度)「保健師基礎教育における地域看護診断の演習・実習で用いる評価ツールの開発」(研究代表者 牛尾裕子), pp48-64, 2015.
- 5) 看護系大学におけるモデル・コア・カリキュラム導入に関する調査研究班：先導的大学改革推進委託事業調査研究報告書「看護系大学におけるモデル・コア・カリキュラム導入に関する調査研究」報告書(研究代表者 野嶋佐由美), 2011.